

（5）南輪内地域 ① 古江地区



1) 地域の概況

◆ 位置・環境

- ・古江地区は、賀田湾の中央に位置しており、冬季は通称水晶山と呼ばれる西の山によって北風や西風を防ぎ、霜や雪を見ない温暖の地で、須賀利とならんで本市内では、一番暖かいところと言われています。
- ・集落は、国道 311 号の西側の斜面地に階段状の狭小道路等で構成されており、漁業集落として独特なまち並み景観をみることができます。
- ・集落の北西の丘陵部に熊野古道が通っています。



古江の集落

◆ 歴史文化

古江は、昔に曾根から分村したといわれ、日常使用する言葉やギッチョ祭りなど独特の文化をもっています。

中世の頃には輪内湾の半分の賀田湾は、古江、賀田、曾根三村の入会（共有）の海であり、曾根の飛鳥神社を氏神としていました。慶長 6 年(1601 年)の検地のときは 21 戸で、寛政 5 年(1793 年)には 71 戸、人口 477 人に増加し、20 帖の網と漁船 36 隻を保持し、漁業によって生計をたてていたことが記録に残っています。明治 5 年に戸籍がつくられたときには、106 戸、人口 560 人に増え、そのうち漁業従事者は 91 戸もあり、古江浦は漁業に支えられていたことがわかります。



古江漁港

◆ 土地利用

- ・古江地区は都市計画区域外にあり、集落に面した一部を除く賀田湾が自然公園（普通地域）となっています。
- ・国道 311 号の東側には、みえ尾鷲海洋深層水アクアステーションや三重県尾鷲栽培漁業センター及び旧古江魚市場等が賀田湾に面して立地しています。
- ・国道 311 号の西側は、階段状の通路などでつながる独特の景観をもつ集落となっています。
- ・集落の北側の旧古江小学校跡地には、旧校舎を活用した、おわせ深層水しお学舎があります。
- ・集落の北側の丘陵地には、一部に農振農用地がありますが、ほとんどは山林となっています。



みえ尾鷲海洋深層水
アクアステーション

◆ 都市基盤

- ・古江地区の主要道路は国道 311 号で、海岸部と集落の間を通っています。
- ・みえ尾鷲海洋深層水アクアステーション、三重県尾鷲栽培漁業センター及びおわせ深層水しお学舎が立地しています。



モクモクしお学舎

◆ 産業

- ・古江地区の主要産業は漁業であり、かつて遠洋漁業も盛んでしたが、現在は沿岸漁業を中心に行っており、今後の新たな展開が求められています。
- ・海洋深層水の利用で新たな企業が進出しています。



若潮公園

2) 地域（まち）の将来像

海洋深層水施設などを活用した産業観光促進と、 海洋深層水を利用した産業振興による快適に暮らせるまちづくり

みえ尾鷲海洋深層水アクアステーション、三重県尾鷲栽培漁業センター及びおわせ深層水しお学舎などの拠点施設を活用した産業観光の振興や、世界遺産・熊野古道の観光客を拠点施設や古江集落内に誘導するとともに、海洋深層水を利用した産業振興を図ることにより、地区の活性化を図り、誰もが快適に暮らせるまちづくりを進めます。

3) 地域のまちづくり方針

◆ まちづくりの柱 1

世界遺産・熊野古道とつながる観光交流ネットワークづくり

世界遺産・熊野古道から古江集落などへのアプローチ道路を整備し、漁業集落として特色ある階段状集落の散策ルートをつくとともに、観光客等との交流を促進します。

◆ プロジェクトの方向

- ・ まちの玄関口づくりの検討
- ・ まちの憩いの場としての公園の活用
- ・ 熊野古道三木峠道・羽後峠道から古江集落等への散策ルートづくり

◆ まちづくりの柱 2

海洋深層水を活用した産業観光及び産業振興の促進

みえ尾鷲海洋深層水アクアステーションやおわせ深層水しお学舎などの産業施設を、積極的に観光施設として活用するとともに、海洋深層水の利用による産業の振興を図ります。

◆ プロジェクトの方向

- ・ アクアステーション及びしお学舎等の集客交流施設の活用
- ・ 海洋深層水の利用による産業振興

◆ まちづくりの柱 3

空き家、遊休農地の活用と階段状集落空間の保全

U J I ターンの移住者に対する集落内の空き家や遊休農地の活用を進め、漁業集落のコミュニティの維持を図るとともに、階段状集落空間を保全します。

◆ プロジェクトの方向

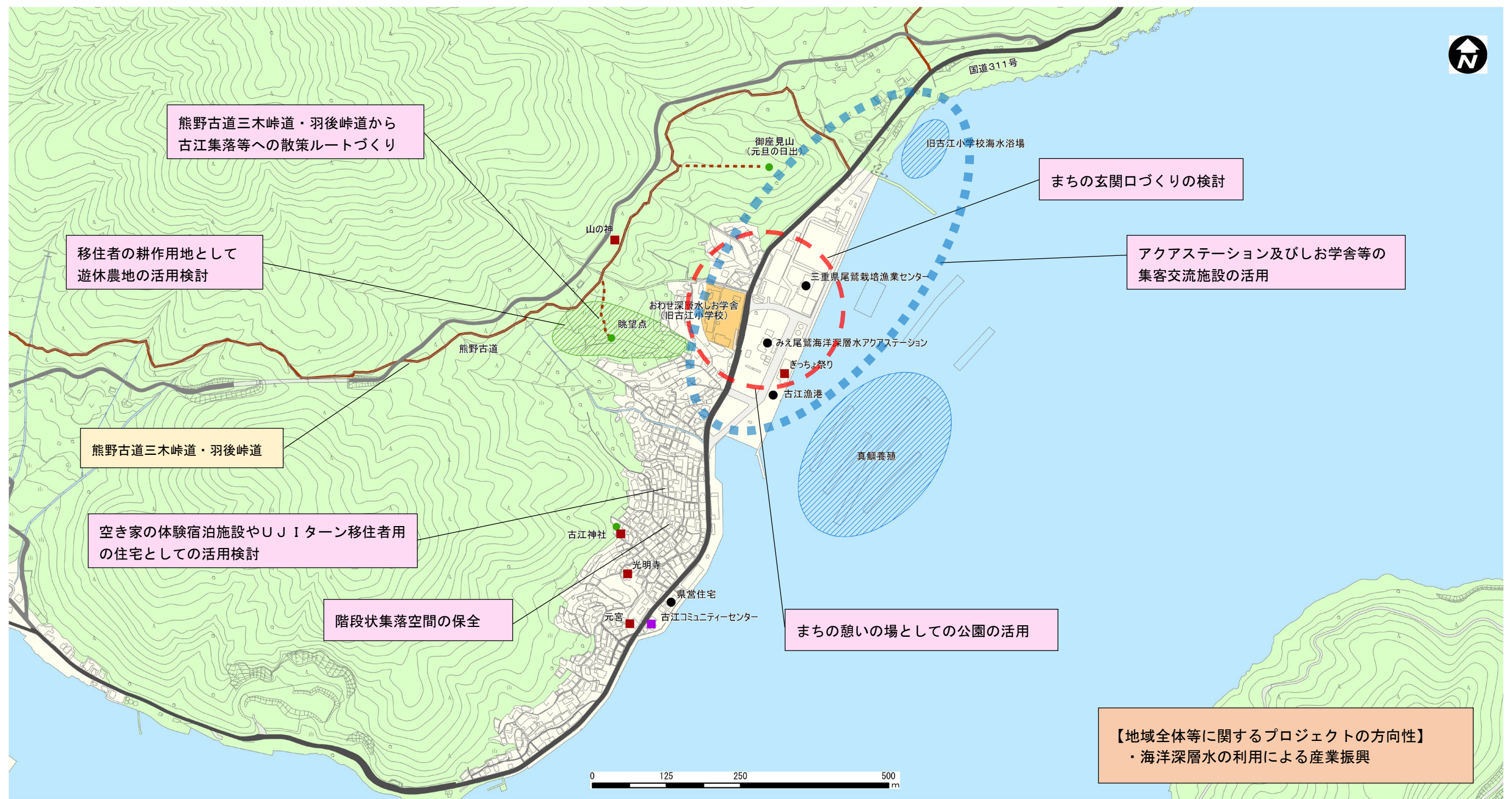
- ・ 空き家の体験宿泊施設やU J I ターン移住者用の住宅としての活用検討
- ・ 移住者の耕作用地として遊休農地の活用検討
- ・ 階段状集落空間の保全

◆ 南 輪 内 地 域 ○ 古江地区 のまちづくり方針

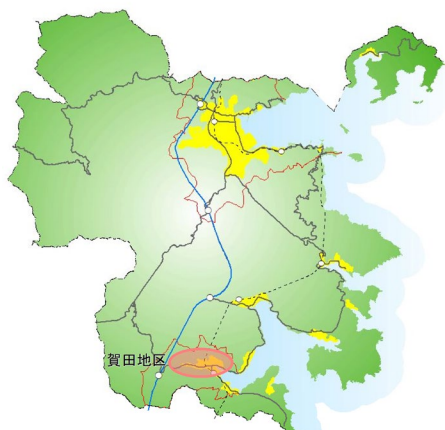
地域（まち）の将来像	海洋深層水施設などを活用した産業観光促進と、海洋深層水を利用した産業振興による快適に暮らせるまちづくり		
------------	---	--	--

地域づくりの方針			
まちづくりの柱 1	世界遺産・熊野古道とつながる観光交流ネットワークづくり	まちづくりの柱 2	海洋深層水を活用した産業観光及び産業振興の促進
まちづくりの柱 3	空き家、遊休農地の活用と階段状集落空間の保全		

プロジェクトの方向



（5）南輪内地域 ② 賀田地区



1) 地域の概況

◆ 位置・環境

- ・賀田地区は、三方を山に囲まれる賀田湾の最奥に位置し、賀田湾に面して南向きの山裾に、美しい家並みが広がる集落です
- ・賀田地区は、国道 42 号及び熊野尾鷲道路の賀田 IC からのアクセス道路である県道賀田港中山線が、賀田湾に沿う国道 311 号と合流し、南輪内地域の中心的地区となっています。
- ・賀田地区には世界遺産・熊野古道が通り、世界遺産登録区間である三木里と賀田を結ぶ三木・羽後峠からは、賀田湾への眺望が楽しめます。



賀田の集落

◆ 歴史文化

本地区は、明治になってから高瀬山の原始林の伐採、木挽きによる製材が盛んになり、林業の振興によって住民の生活は豊かになり、輪内地区の小都会の様相をみせていました。

林業に依存する一方で、広大な田畑もあり、専業農家や米屋、酒屋、大工、石工、薬屋、鍛冶屋、桶屋などがみられ、南輪内地域の中心的都市として発展しました。

賀田は、本来“潟（がた）”の意味で、古川河口にできた干潟に形成された集落であり、かつては干潟を利用して製塩が行なわれたことがありましたが、2年で閉鎖しています。



熊野尾鷲道路（賀田 IC）

◆ 土地利用

- ・ 賀田地区は、都市計画区域（一部の地区を除く）内にあり、集落の北側には農振農用地があります。賀田港は、臨港地区に指定されています。
- ・ 集落は、本地区の発展を支えた山林や農地を背景に南向きの山裾に広がっていますが、農地の大半は遊休農地となっており、西側には輪内中学校、北側には賀田小学校、南輪内保育園などが立地しています。
- ・ 古川上流には採石場があり、石材等が賀田港から移出されています。



賀田小学校と輪内中学校

◆ 都市基盤

- ・ 賀田地区の主要道路は国道 311 号で、賀田 IC からのアクセス道路が整備されています。
- ・ 賀田港は、石材等の積み上げ場となっており、周辺環境と調和した臨港地区づくりが望まれています。
- ・ 賀田地区には、輪内中学校、賀田小学校のほか、J R 賀田駅が立地しています。



遊休農地を活用した桜並木

◆ 産業

- ・ 賀田地区の産業は、かつては林業で栄え、比較的豊かな農地で農業も営まれましたが、近年の農林業等の低迷により、地場産業は成り立ちにくくなっています。
- ・ 賀田地区の一部に石材採取場の立地がみられます。



賀田港

2) 地域（まち）の将来像

紀勢自動車道、熊野尾鷲道路につながる南輪内地域の中心地区としての 快適に暮らせるまちづくり

賀田地区は、賀田インターチェンジのアクセス道路や国道 311 号に加えて、世界遺産・熊野古道が通る交通の要衝であり、南輪内地域の中心地区として観光交流ネットワークを整備し、将来も誇りのもてる誰もが快適に暮らせるまちづくりを進めます。

3) 地域のまちづくり方針

◆ まちづくりの柱 1

賀田インターチェンジを活用した観光交流ネットワークづくり

賀田インターチェンジからの導入部である位置的条件を活かし、世界遺産・熊野古道と連携した観光交流ネットワークづくりを進めます。

◆ プロジェクトの方向

- ・賀田インターチェンジからの導入部として、観光交流のネットワークづくりの推進
- ・熊野古道三木峠道・羽後峠道と賀田集落等への散策ルートづくり
- ・世界遺産・熊野古道周辺のまちなかの見どころ等の情報発信
- ・「桜のその(桜の植樹)」の維持管理と情報発信
- ・環境整備による地区のにぎわいの復活
- ・「枅の木」、「枅の森」の活用、情報発信

◆ まちづくりの柱 2

自然環境や生活環境と調和した臨港地区づくり

石材等の積み出しによる賀田港の騒音やほこり対策の検討を行うとともに、降雨時に濁流となる古川などの濁水被害の改善に努めます。

◆ プロジェクトの方向

- ・賀田港周辺の騒音やほこりへの対策による環境改善の促進
- ・濁水被害の対策による水質の改善

◆ まちづくりの柱 3

南輪内地域の中心地区にふさわしいまちづくり

既存の施設を交流の場として活用するとともに、地域資源の有効活用を図り、空き家をU J I ターン者の住宅として、活用を検討します。

◆ プロジェクトの方向

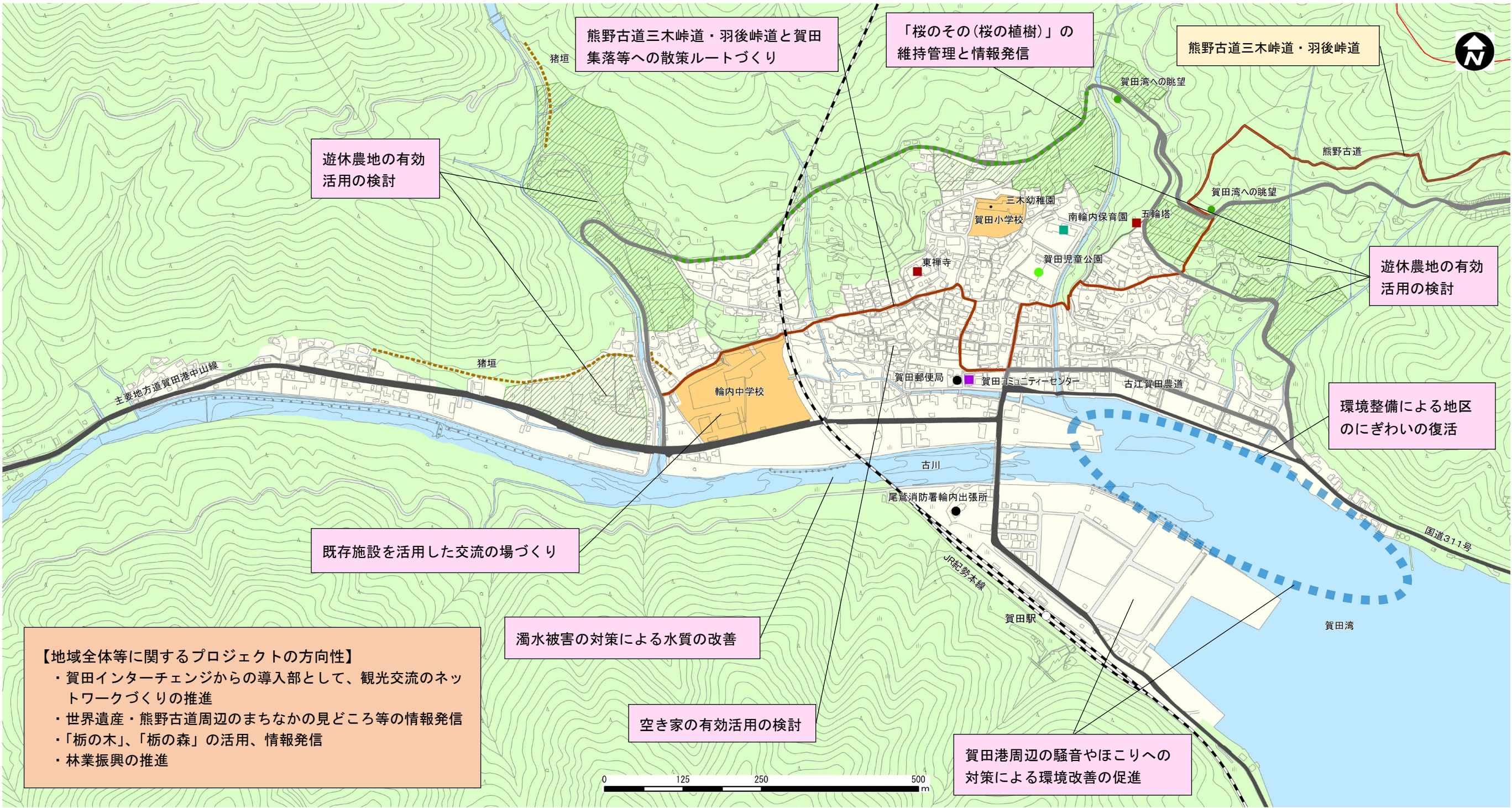
- ・ 既存施設を活用した交流の場づくり
- ・ 遊休農地の有効活用の検討
- ・ 林業振興の推進
- ・ 空き家の有効活用の検討

◆ 南 輪 内 地 域 ○ 賀 田 地 区 のまちづくり方針

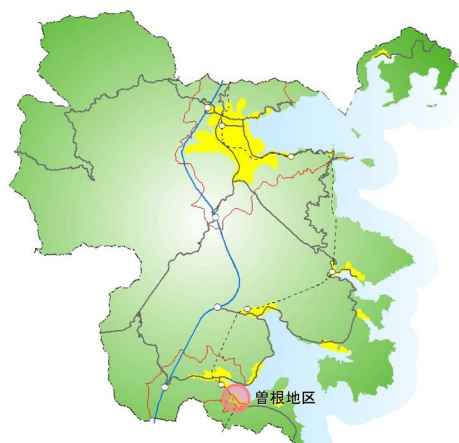
地域（まち）の将来像 紀勢自動車道、熊野尾鷲道路につながる南輪内地域の中心地区としての快適に暮らせるまちづくり

地域づくりの方針			
まちづくりの柱 1	賀田インターチェンジを活用した観光交流ネットワークづくり	まちづくりの柱 2	自然環境や生活環境と調和した臨港地区づくり
まちづくりの柱 3	南輪内地域の中心地区にふさわしいまちづくり		

プロジェクトの方向



（5）南輪内地域 ③ 曾根地区



1) 地域の概況

◆ 位置・環境

- ・ 曾根地区は賀田湾の南岸にあって、東の瀬崎と呼ばれる小半島の扇状地の上にあります。
- ・ 曾根地区は、国道 311 号が地区を横断し、同国道の南西側に集落が形成され、かつては南輪内地域の中心として役所が置かれていたところです。
- ・ 集落内には熊野古道が通り、飛鳥神社をはじめ曾根弾正屋敷跡などの歴史的資源が残されています。



曾根の集落

◆ 歴史文化

戦国時代に、近江国から盗賊の取り締まりのために招かれた佐々木宇右衛門が宇杉城(城山)を築造し、世情を安定させて曾根弾正と称しました。

飛鳥神社は、今から千有余年前に創建された宮であり、境内には楠・杉などの大木や北限となるハマセンダンの大木もあります。同神社は南輪内四郷の氏神ですが、最近では曾根浦が中心となって、飛鳥神社奉賛会を結成して、祭典を執行しています。

本地区は、数々の古い由緒ある文化を基盤として、南輪内地域の政治の中心として栄えてきたところです。



飛鳥神社

◆ 土地利用

- ・ 曾根地区の一部は、都市計画区域内にあります。
- ・ 曾根地区は、国道 311 号の北東側の賀田湾に面して、飛鳥神社や曾根漁港などがあり、また国道 311 号の南西側の緩やかな傾斜地に小規模の集落を形成しており、曾根コミュニティーセンター、輪内高齢者サービスセンターなどが立地しています。
- ・ 集落を取り囲むようにみかん畑等の農地があり、農地の背後は山林で、その中に城山公園が立地しており、良好な景観スポットがあります。



曾根漁港

◆ 都市基盤

- ・ 曾根地区の主要道路は国道 311 号で、海岸部と集落の間を通っています。
- ・ 曾根地区には、曾根コミュニティーセンター、輪内高齢者サービスセンターがあります。
- ・ 集落の南に城山公園があります



城山公園

◆ 産業

- ・ 曾根地区の地場産業としては漁業が行われています。
- ・ 今後は、世界遺産・熊野古道や城山等の歴史文化資源を活用した南輪内地域の観光交流の場づくりが求められています。

2) 地域（まち）の将来像

自然環境と城山や世界遺産・熊野古道などの豊かな歴史文化資源を活かした快適に暮らせるまちづくり

世界遺産・熊野古道や城山など多くの歴史文化資源が蓄積されており、周辺の良い自然環境とともに、これらを活用した南輪内地域の歴史文化観光拠点づくりを推進し、誰もが快適に暮らせるまちづくりを進めます。

3) 地域のまちづくり方針

◆ まちづくりの柱 1

世界遺産・熊野古道が通る歴史的集落としての観光交流ネットワークづくり

世界遺産・熊野古道を活用し、周辺に点在する歴史文化観光資源をつなぐとともに、歴史的集落としての観光交流ネットワークづくりを進めます。

◆ プロジェクトの方向

- ・熊野古道曾根次郎坂・太郎坂と曾根集落等への散策ルートづくり
- ・世界遺産・熊野古道周辺のまちなかの見どころ等の情報発信

◆ まちづくりの柱 2

空き家や山林、遊休農地等を活用した生活環境づくり

ＵＪＩターン者の住宅をはじめとする集落内の空き家や遊休農地の活用を進めるとともに、山林等の有効活用により良好な生活環境をつくれます。

◆ プロジェクトの方向

- ・遊休農地や空き家の有効活用の検討
- ・良好な生活環境のための山林等の活用の検討

◆ まちづくりの柱 3

歴史文化資源、水産資源や自然資源の観光活用と情報発信

集落内に蓄積された城山、飛鳥神社、縄文土器等の歴史文化資源や、水産資源、また、オンツツジ等の自然資源を積極的に情報発信し、誘客観光交流を推進します。

◆ プロジェクトの方向

- ・ 城山や飛鳥神社等の歴史文化資源の活用と情報発信
- ・ 水産資源の活用と情報発信
- ・ オンツツジ等の自然資源の活用と情報発信

◆ 南 輪 内 地 域 ○ 曾 根 地 区 のまちづくり方針

地域（まち）の将来像	自然環境と城山や世界遺産・熊野古道などの豊かな歴史文化資源を活かした快適に暮らせるまちづくり		
------------	--	--	--

地域づくりの方針			
まちづくりの柱 1	世界遺産・熊野古道が通る歴史的集落としての観光交流ネットワークづくり	まちづくりの柱 2	空き家や山林、遊休農地等を活用した生活環境づくり
まちづくりの柱 3	歴史文化資源、水産資源や自然資源の観光活用と情報発信		

プロジェクトの方向



（5）南輪内地域 ④ 梶賀地区



1) 地域の概況

◆ 位置・環境

- ・ 梶賀地区は、賀田湾入口の南部、賀田湾から南に入り組んだ入江の奥に位置し、北東に向かって湾内側に地形が開けています。
- ・ 梶賀地区は、背後に地切山がそびえ、山裾が海までせまる谷間を囲うように集落が形成された小規模な漁業集落です。



梶賀の集落

◆ 歴史文化

本地区には、鯨突きという、クジラの供養と大漁祈願を兼ねた漁労風俗をそのまま再現するハラソ祭り（無形民俗文化財）があり、毎年成人の日には、地藏寺でクジラ供養と豊漁を祈願したあと、大漁旗や吹流しを掲げた華やかなハラソ船が湾内を巡り、捕鯨の歴史を伝えています。

本地区は、漁業の盛んな港で、特に加工業が盛んです。また落し網による鰯定置網漁業により栄え、現在も、梶賀漁港には漁船が停泊し、梶賀漁港を取り囲む集落とともに、小規模ながらのどかな漁業集落の風景がみられます。



梶賀神社

◆ 土地利用

- ・ 梶賀地区は都市計画区域外にあり、半島部は自然公園特別地域（第3種）となっています。

- ・梶賀地区は小規模な漁業集落であり、梶賀漁港を中心として集落が取り囲んでいます。
- ・漁港を取り囲む道路以外は狭く、階段状の路地沿いに木造家屋が密集しています。

◆ 都市基盤

- ・梶賀地区の主要道路は、集落を南北に縦断する市道であり、集落の南と北で国道 311 号とつながっています。

◆ 産業

- ・地場産業は漁業であり、明治 29 年頃定置網漁業が始まり、現在も続いています。かつては梶賀沖でとれる細魚を干魚にし、また鰹は生節や鰹節にして名古屋・大阪方面へ移出されていました。現在も日照時間が短く冷たい北風が湾内に入り込む気候条件を活かし、品質の良いひものやあぶりの加工をしています。



梶賀漁港



磯遊びスポット



梶賀コミュニティーセンターとハラソ祭り

2) 地域（まち）の将来像

豊かな海の幸を活用した快適に暮らせるまちづくり

本地区に継承されるハラソ祭りなどの伝統文化、遠浅のリアス式海岸により形成された梶賀漁港などの、豊かな自然環境や海の幸等を活かした体験観光ができる誰もが快適に暮らせるまちづくりを進めます。

3) 地域のまちづくり方針

◆ まちづくりの柱 1

ハラソ祭り等の伝統文化の継承と観光交流の場づくり

伝統行事であるハラソ祭りを継承するとともに、新鮮なひものやあぶり等の加工が体験できる観光交流の場づくりと情報発信に努めます。

◆ プロジェクトの方向

- ・ 伝統行事であるハラソ祭りの継承と特産品の活用
- ・ 梶賀コミュニティーセンター等を活用した観光交流の場づくり

◆ まちづくりの柱 2

海と地形を活かした梶賀漁港の多角的利用の促進

遠浅の海、リアス式海岸と漁港を活かした、磯遊びスポットや釣りスポットエリアを保全するとともに、魚市場等を含めた梶賀漁港の多角的な利用を検討します。

◆ プロジェクトの方向

- ・ 釣りスポット、磯遊びスポット等の活用の推進
- ・ 海の幸の加工体験や販売の促進

◆ まちづくりの柱 3

空き家などの活用による漁業集落の維持

漁業の担い手の住まいのとしての空き家の活用や、旧小学校校庭の防災施設としての利用の検討を行うとともに、急傾斜地対策等の整備を行い、漁業集落の維持を図ります。

◆ プロジェクトの方向

- ・ 空き家を漁業の担い手の住まいとして活用
- ・ 旧小学校校庭の防災施設としての活用の検討

◆ 南 輪 内 地 域 ○ 梶 賀 地 区 のまちづくり方針

地域（まち）の将来像		豊かな海の幸を活用した快適に暮らせるまちづくり	
地域づくりの方針			
まちづくりの柱 1	ハラソ祭り等の伝統文化の継承と観光交流の場づくり	まちづくりの柱 2	海と地形を活かした梶賀漁港の多角的利用の促進
まちづくりの柱 3	空き家などの活用による漁業集落の維持		

プロジェクトの方向



